

保育サポートシステム通信 vol.1



「長崎県医師会保育サポートシステム」は、本年4月1日から運営をスタートし、6月1日から運用を開始しました。関係者の皆様のご理解とご協力のお陰で、順調に支援を始動することができましたことを、心から感謝しております。

この通信が、サポーターさんや、ご利用の医師だけでなく、サポーターにご興味のある方や子育て中の医師にとっても有益な情報を提供するとともに、よりよいシステムにしていくための情報交換の場になればと考えております。



安全で、使い勝手の良い 保育サポートを

長崎県医師会

常任理事 上戸 穂高

近年、医学部入学の女子学生の比率が増えつつあり、3割となっています。今後、欧米並みの5割に届く可能性のある中、女性医師を支える環境は整備されているとは言い難い状況です。

特に、働き盛りの時期と、結婚・出産・育児の時期が重なるので、その対策は社会的に重要な意味を持ちます。また個人のキャリアアップの夢を叶えることは、社会で女性の活力を生かし、職場での多様な働き方を創造することに繋がり、若い女性医師のモチベーション維持に有効だと思われます。

以上を踏まえ、長崎県医師会は昨年、男女共同参画委員会を立ち上げ、メンバーと検討を行いながら、本年度から保育サポートシステムを開始しました。目指すところは迅速・安全で、融通の利く、使い勝手のよいサービス提供です。

現在は長崎大学病院中心で動いていますが、今後長崎市内の公的病院へサービスを拡大したいと考えています。利用された先生方やサポーターの方々には是非、御意見を頂き、今後の事業活動に生かしたいと思うので、関係する皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



子育て医師を、 優しく見守ります

長崎大学病院

メディカル・ワークライフバランスセンター

センター長 伊東 昌子

長崎県医師会と長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターが共同で設置した「長崎県医師会保育サポートシステム」。子育て中の医師（男女問わず）が、仕事と育児を両立するための支援を目的に、ニーズに沿った保育サポーターの情報提供・紹介を行っています。本事業により、子育て中の医師の就労継続と、医師不足の解消につなげることで、長崎県の医療に貢献できればと期待しています。

このシステムは、山口県医師会と群馬県医師会が先行して運用を開始しており、両医師会から多くの情報をいただきながら、長崎県に合うシステム作りを目指してきました。まずは長崎大学病院に勤務する子育て医師を対象としますが、ノウハウを確立したら、徐々に長崎県内へ拡大していきたいと考えています。

もし、保育サポーターになりたい人をご存じでしたらご紹介ください。また保育に手助けを必要としている忙しい医師を見かけられたら、このシステムがあることをお知らせください。

コーディネーターはじめ、システムの関係者が、優しく見守っています。

第1回 保育サポーター研修会

初めての保育サポーター研修会を5月10日（土）に長崎県医師会館大会議室で開催しました。上戸常任理事による「保育サポートシステム概要」、出口小児科医院 出口貴美子院長による「子どもの病気とホームケア」、長崎大学保健・医療推進センターカウンセラー 富永ちはる先生による「子どもの心の発達」と題するご講演をいただきました。

出口貴美子先生のご講演では、クイズ形式で「子育て神話のウソ、ホント？」に沿って、説明していただきました。「熱が出たら温めて汗を出させる」一答えはNO。「嘔吐下痢症などで、嘔吐がはじまったら、飲ませないでください」一答えはNO。誤りやすい事例を挙げていただき、とても興味深い内容でした。また、子どもの事故に関しては、予防が大切だということが分かりました。富永ちはる先生のご講演では、生まれて間もない赤ちゃんが、母親からの積極的な働きかけに反応する様子をビデオで紹介していただき、会場が温かい雰囲気になりました。約2時間半の研修会の間、メモを取りながら、熱心に最後まで聞かれた参加者の姿が印象的でした。



サポーターの声

私は長崎市ファミリーサポートの会員として数年前から登録しておりました。子育てが一段落したのを機会に、自分が出来る範囲で社会の役に立ちたいと思ったのです。今回育児をしながら働く先生のお手伝いになればと、医師会の保育サポーターにも参加させていただきました。

現在は、小学2年生のお子さんを週1回1～2時間お預かりしております。宿題の後に一緒におやつを食べたり、チェスなどの相手をしたりしていると、あっという間に時間が過ぎてしまいます。まるで自分の子供が小学生だった頃に戻ったようで、私自身とても楽しく過ごさせていただいております。始めの頃はお互いに緊張していたように思いますが、少しずつ慣れてきました。また、1歳のお子さんの3人目のサポーターにもなっておりますが、最低でも2人のサポーターが担当するシステムは、お互いに安心できるものだと思います。子育て中の先生にとって、痒いところに手が届くような存在になればと思っています。



利用者の声

主人の単身赴任がきっかけで、今回初めて保育サポートシステムを利用させていただきました。まだまだ手のかかる6歳と4歳の男児を抱えて常勤をこなすことに限界を感じていました。これまでもいろんなサポートシステムを自分なりに検討していましたが、やはり最初は勇気があるものです。初対面の人と上手く信頼関係が築けるのか、トラブルが起きないか、子供が馴染めるか。前へ進めずに悩んでいた折に病院の掲示板を通じてこのシステムを知りました。病院勤務という状況に応じて作られたシステムというのが何より決め手でした。申し込むと程なく、こちらの希望に応じた方をご紹介いただきました。値段交渉など言い出しにくいこともスタッフの方が間に入ってくださいるので安心でした。我が家に初めてサポーターさんをご案内する日はスタッフの方がわざわざ同席してくださり、こちらの不安を細かく気遣っていただいていることが心に伝わった瞬間でした。サポーターさん、スタッフの皆さんとの繋がりが、今では本当に親戚のように心強く感じられます。素晴らしい出会いを与えてくださったこのシステムに感謝し、より多くの医師が安心して働ける環境へと広がっていくことを願っています。

システムからのお知らせ

「保育サポートシステム」のサイトを、8月1日に開設しました。長崎県医師会ホームページからアクセスできます。システムの詳しい内容を紹介していますので、是非一度、ご覧になってみてください。

URL <http://www.nagasaki.med.or.jp/>

●子育て中の医師の皆様へ

お子様の対象年齢に制限はありません。習い事や塾への送迎もOKです。小学生のお子様一人での移動が心配な方、是非検討してみてください。

●サポーターの皆様へ

最近、洗濯1回分の量を透明フィルムで包んだパック型洗剤が発売されています。ゼリーのように見えるため、誤飲事故も起きているそうです。今一度、家の中に危険が潜んでいないか、チェックをお願いします。



コーディネーターです！
よろしくお願いたします！

サポーターさんの窓口、岸川しずかです。「子育て経験や資格を活かして社会の役に立ちたい！」そんな皆さんと、「うちの子育てを手伝って！」という医師の方々を、相性ぴったりでつなぐことができたら最高に幸せです。たれ目の笑顔でお待ちしています。どうぞよろしくお願いたします。



岸川しずか(写真左) 松尾郁子(写真右)

長崎県医師会 岸川しずか

長崎大学病院で医師の窓口を担当しております。子育て中の医師が、仕事と家庭を両立し、安心してお仕事を続けられるお手伝いができれば幸いです。どうぞよろしくお願いたします。

長崎大学メディカル・ワークライフバランスセンター 松尾 郁子



現在の状況

平成26年8月31日現在

保育サポーター登録者	34名
申し込み医師	8名
サポートを受けた医師	4名

問い合わせ先

【長崎県医師会保育サポートシステム】

▶長崎県医師会

〒852-8532 長崎市茂里町 3-27 TEL.095-844-1111 FAX.095-844-1110 <http://www.nagasaki.med.or.jp/>

▶長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター

〒852-8501 長崎市坂本 1-7-1 TEL&FAX.095-819-7979 <http://nagasaki-ajisai.jp/>